

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700832		
法人名	社会福祉法人 豊中福祉会		
事業所名	グループホームとよなか		
所在地	香川県三豊市豊中町笠田竹田697番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 15 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとよなかは、緑あふれる田園地帯ののどかな場所にあり、同敷地には特別養護老人ホーム、デイサービス、老人介護支援センターが併設されている。日々、入居されている方の能力に応じて、ゆったりした介護、個人の人権を尊重した介護を提供している。長く入居されるにつれて重度化が進み、最近では車椅子使用の方も増えて来たが、個々の状態に合わせて対応し、グループホームでの生活を長く継続して頂けるよう、看取りについても早急に整備している。また自立支援に向けて、ご入居者の有する能力を可能な限り活かし、公民館活動の講座に参加したり、食事の片付け、洗濯や掃除などその方に応じた役割を持って生活されることで自信、満足感に繋げている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771700832-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 22 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

冬至の日に訪れたこの施設では、邪気を払う意味を込めて、ゆず湯を用意し、昼食には柚酢を使ったばら寿司、無病息災を祈って、かぼちゃの煮物が出されていた。「体にいいから、かぼちゃ食べよう。」と職員は利用者に優しく語り掛け、一緒に食卓を囲んでいた姿は、思いやりにあふれた心温まるものであった。管理者は、「利用者が持っている特色や特技を、職員が手助けすることで、継続して活かしていけるような介護に努めている。」と語った。家族や地域の方々とのつながりを持つ機会を増やし、心が和む時間を作ることで、利用者は暖かい言葉がけに涙し、朗らかな表情で、毎日を過ごせている。利用者にも、モップ掛けや、食事の配膳など手伝って頂いたり、パズルや手芸などの得意なことを楽しんだりすることは、生活に張り合いが持てることに繋がっている。運営推進会議からの意見を活かして、下肢筋力体操やラジオ体操などの、体を動かす時間を多く作り、少しでも利用者のADLの維持ができるように努めていた。職員と何でも話ができて、管理者はじっくりと聞く体制が、職員一丸を形成し、”利用者のために”を第一とした介護が行われているこの施設は、春に向かっていく希望の始まりとする冬至にふさわしい雰囲気溢れていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホームの理念の双方を常に目に入るよう、玄関、事務所に掲示し、その意義を確認できるようにしている。また理念に沿った事業計画を毎年立てて、達成できるよう全職員が取り組んでいる。	理念は玄関と事務所に掲示してある。年ごとに理念に沿った目標を、理事長と施設長が設定し、職員に説明し指針としている。毎月のケア会議の時に、理念や目標に触れ、振り返るようにしている。新入社員にはオリエンテーションの際に、理念について施設長が説明して、理解につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃奉仕活動は継続して行っていたが、コロナ禍で中止していた地域の公民館講座への参加も再開することができた。また近隣の小学校のSDGsの取り組みで植えたというパンジーのプランターを多数いただいたり、別の小学校から玉ねぎをたくさん頂いたりして交流が図れた。さらに民生委員・児童委員の方、老人クラブの方の訪問など徐々に交流が活発になってきた。	秋祭りが再開され、獅子舞が施設を訪れ、利用者は楽しい時が過ごせた。公民館の体操やゲームの講座に参加し、地域の方からの優しい言葉掛けに、涙ぐむ利用者がいた。運営推進会議や回覧板で、地域の情報が入ってくる。法人内の別施設でのオレンジカフェで、利用者や地域の方は交流している。通学中の生徒と、挨拶を交わすこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で、認知症カフェ「オレンジかふえとよなか」を毎月第3日曜日に開催しており、グループホームからも職員が参加。認知症専門職として、茶話会で相談・助言を行ったり、認知症の基礎知識、予防、リハビリ体操等の講話を行っている。オレンジかふえではケアマネや看護師による相談コーナーも設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、老人会会長、ご家族など多くの参加を頂いている。事業計画、年間の目標、取り組み、入居者状況、行事活動の報告を行い、参加者から頂いた貴重な意見を持ち帰り、職員間で共有している。コロナ時、高齢者が家に籠りがちで運動不足になっている話題から、地域包括職員に助言頂き、下肢筋力トレーニング開始のきっかけにもなった。	自治会長、老人クラブ前会長、民生委員、地域包括支援センター、家族代表、施設長、管理者が参加し、対面で行っている。会議の際に、「コロナ禍で、運動不足から下肢筋力体操など、体を動かすこと」の提案があり取り入れた。会議の際に、利用者の日常や行事の際の写真を添付し、施設での様子を分かりやすくしている。	運営推進会議の更なる活用のために、意見を取り入れる仕組み作りを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センター職員と運営推進会議時に情報交換を行っている。グループホームの運営なども相談し、助言を頂いたり、包括の取り組みについても情報を頂いている。	窓口は管理者がしている。議事録や案内等、直接持っていくことがある。運営推進会議の折に、シェイクアウトに関する資料を頂いたり、転倒事故に関する対応の仕方について、アドバイスを受けていたりして、何でも相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームでは身体拘束に該当する方はいないが、法人全体で身体的拘束適正化委員会を開催しており、グループホームからも職員が参加している。年に2回身体拘束の基礎知識や事例検討、指針の読み合わせ等研修を行い、全職員が正しい知識の習得ができるように努めている。	法人全体の身体拘束委員会は、重要だけにあえて2か月に1回設け、担当職員が参加し、事例を挙げ、対応を話し合ったり、各施設の報告をしたりしている。ケア会議で、委員会の内容を、担当職員が報告し、職員全員が周知している。年2回、身体拘束に関して職員全体で研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に3回虐待防止についての勉強会を行い、日々の生活場面で虐待の芽になるような言動がないか、自身の振り返りを行う機会を作っている。また年に1回、自分の声掛けや介助の方法が適切か、虐待に繋がるものがないか、虐待意識調査を行って、結果を公表、改善策を話し合っている。職員のストレス加重も虐待(不適切なケア)に繋がる恐れがあるため、ストレスマネジメントの勉強会を行い、常日頃から何でもフラットに話し合える職場環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されているご入居者はいないが、年に1回権利擁護に関する制度について勉強会を行い、ご入居者の権利が守られるよう、知識習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分に面談の時間を設け、入居に際しての不安や疑問点などが解消できるよう、書面に沿ってしっかりと説明を行っている。解約時と同様である。また料金等の改定などがある際には、運営推進会議で説明し、ご家族に個別に説明を行い、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議にご参加頂き、その際頂いたご意見を運営に反映させている。会議に参加されないご家族には、面会等でご来荘時や電話で話す際、また担当者会議の際にご意見、ご要望を伺っている。ご入居者とは日々の関わりの中で、遠慮なく要望を言って頂ける関係性作りにも努めている。	運営推進会議や、電話、面会時に家族の意見を聞き取るようにしている。家族から、“外での花見などのイベントを開催してほしい”との要望があり、来年の課題として開催する方針としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中でも、ご入居者のケアや行事の開催等について、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。またケア会議でも意見を募り、言いたいことが言える職場の雰囲気作りにも努めている。職員個々も委員会や係で役割を持っており、責任を持って取り組んでいる。	月1回のケア会議で、職員が言いやすい環境作りにも努めており、活発な意見が出ている。不適切ケアがあった時にも、お互い注意しあえる関係づくりが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標参画シートやOJTシートを活用し、職員一人ひとりが年間の目標を立てている。管理者は年に2回面談を行い、悩みや困っていることはないか確認し、目標達成に向けて取り組めるようにしている。代表者は給与体系を整備し、管理者が行った評価をもとに、職員個々の努力や実績を把握し職場環境、条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成について理解を示し、管理者や職員個々の経験値、習熟度の段階に応じた研修機会を均等に与えている。また認知症実践者研修の受講や介護福祉士取得のためのバックアップ体制が整っており、働きながら資格取得が出来る体制がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の研修に参加し、研修先で情報交換を行ったり、他施設管理者に電話や訪問で運営について相談し、自施設のサービス向上に取り入れている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人・ご家族と十分な面談時間を設けたり、入居前に施設訪問して頂き、説明や案内も行っている。ご本人が不安なくスムーズに施設の生活を始められるよう、在宅での生活習慣や日課、こだわり等を聞き取りし、不安なく安心して日々の生活が送れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時よりご家族の意向や不安・心配ごとを面談時間を設けて傾聴している。またグループホームでの生活について十分に説明を行いご理解頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にこれまでの生活歴や在宅での暮らしについて、アセスメントシート(センター方式)をお渡しして聞き取りを行っている。ご本人やご家族のニーズを十分に聞き取りして、初期段階に必要なとしているサービスを見極めて提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご入居者は共に支え合いながら共同生活をしているという認識を持ち、一緒に食事をしたり、家事を行っている。昔ならではの風習などを話して聞かせていただく機会も多く、年長者への尊敬の気持ちを常に持ち、個々の能力を発揮できるように、サポートをさり気なく行えるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には入居時より、面会や外出、受診同行の協力をお願いし、施設に入居してもご家族との絆が続くよう、ともにご本人を支えていく関係性の継続に努めている。またご家族が気軽に訪問できる雰囲気作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型施設としての位置づけを理解し、コロナウイルス流行で一度途切れてしまった地域交流の活動を少しずつ再開している。公民館活動の講座に参加したり、文化祭や地域のお宅へのお花見物など、地元の顔なじみの人に会える機会を増やしている。また、家族や親戚、知人に年賀状や手紙のやり取りを行う機会を作っている。	公民館の講座に参加した際に、馴染みの方と交流し、涙を流す利用者がいた。家族との面会は、感染対策をした上で、居室やリビングで30分の時間制限を設けてくつろいで頂いている。オレンジカフェで利用者が、地域の方と交流している。施設内で開催していた”わきあい愛会”を、コロナの状況を見て、再開する方針。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格やADL、認知症状、ご入居者同士の相性も考慮し席を決めており、必要に応じて席替えを行うこともある。同席者同士で声を掛け合ったり、助け合う場面も多い。また、重度の認知症の入居者が孤立しないように会話の際、職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所され契約が終了しても、そこで関係が断ち切られることなく、ご本人の新しい生活がスムーズに移行できるよう情報提供し、フォローしている。必要に応じて訪問や相談にも応じている。同法人の特養に入居された方についても、その方の経過を特養職員と話し合う機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、暮らし方の希望や意向について、日々の生活の中でご本人に確認し、ケアに反映できるようにしている。主に外出や食事、人間関係の希望が多く、その都度希望を叶えられるよう努めている。食事やおやつで食べたいものの希望があれば個別に購入し提供している。外食にも希望があれば可能な範囲で個別に出かけている。	日々の生活の中での会話や関りから、利用者の思いをくみ取るようにしている。誕生日には、利用者の希望のお店に、担当職員と一緒にいき、外食を楽しんでいる。会話が困難な方には、毎日の寄り添ったケアの中での、仕草や表情から、くみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人とご家族に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、好きなこと、得意なこと等お聞きして全職員で共有できるようにしている。(気づきノート等)またこれまでのサービス利用の経過を担当ケアマネージャーにうかがい、好きなことや得意なことを役割として継続したり、披露する場を作り、自信を持って暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者一人ひとりの心身の状態や残存機能の把握に努めて、その人がその人らしく活動や家事手伝いを行い、自分のペースで快適に過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の入居者カンファレンスの時間を利用し、ご入居者一人ひとりの課題やケアのあり方について意見交換を行い、介護計画とモニタリングに反映させている。またご本人、ご家族の意向も半年に1回聞く機会を設けている。ご入居者に変化があった場合やご家族から要望があった際はその都度変更を行っている。	月1回の、ケアカンファレンスがモニタリングを兼ねていて、医師や担当職員の意見を元に、話し合いを重ねている。短期目標は3か月、長期目標は6か月で見直している。施設介護計画書は、入居時に作成した後、何もなければ1か月、あとは3か月ごとに、ケアマネジャーを中心に、利用者の立場に立ったケアに繋がるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の様子、言動、心身状態の経過、気づきや工夫をケアカルテに入力し、特に重要なことは申し送りノートを活用して情報の共有を行っている。また、月1回の入居者カンファレンスの際に課題の解決について話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族それぞれにその時生まれるニーズは多様化してきているが、今までに例がないからと渋ることなく、看取りも含めてご家族の意向を確認して柔軟な支援を行えるように努めている。グループホームから習い事に出かける等軽度の認知症の方の支援から、重度になっても住み慣れたグループホームで一日でも長く生活できるような支援体制を整えていけるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設に入居しても地域の一員として生活が送れるように、地域活動(清掃など)や公民館活動に参加する機会を設けている。またタクシー券を利用してお出かけしたり、地元住民のご自宅にお花を見に行ったり、地元の方の月1回のボランティア訪問を受け交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ご本人、ご家族に意向を確認し、入居前からのかかりつけ医を継続するか、新たに現在の症状に適した病院に転医するか相談し決めている。受診についてはご家族にご同行頂いているが、施設での生活の様子は書面でかかりつけ医に報告しており、必要に応じて職員も同行し、かかりつけ医と連携できるよう努めている。	かかりつけ医は入居前からの継続としていて、家族の付き添いで受診している。医師には、書面で状態を報告し、状態に変化があった時は、職員が付き添って行くようにしている。他科は職員が付き添うことが多い。歯科は月の2回往診がある。協力医は24時間対応で、法人内の看護師に相談できる体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者のわずかな変化や気づきがあれば、看護師が週5日出勤しており、出勤時報告、相談し、指示をもらったり看護師により処置を行っている。看護師より受診の指示があった場合は、早急にご家族に連絡し、早期の受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご入居者が入院された際は、管理者がお見舞いを兼ねて出向き、病院関係者に現状を聞き、地域連携室の担当者と相談しながら早期の退院に向けて連携している。ご家族が遠方で病院にすぐに出向けない場合では、退院時等送迎も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を示して説明を行い、重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人・ご家族に確認している。要介護3以上になった際には、担当者会議等で今後重度化が進んだ場合に、いくつかの選択肢を説明し、ご本人やご家族の意向、方針を話し合っており、よりよい方向に向けて支援を行っている。グループホームでの生活を強く望まれた場合については、看取り介護も含めて多様に対応できる支援体制を整えている最中である。	看取りは準備中で、指針など作成中。入居時に、家族に終末期に関する説明と確認はしているが、重度化した場合には、医師の意見のもと、再度、意向確認をしている。その上で、家族の希望があれば、出来る限り施設でケアするように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生の際は、簡単な応急手当など救急救命に関する研修を受け、対応できるようにしている。法人の看護師長に特変時の対応について学ぶ機会も設けている。急変や事故発生時は1人で判断せず、上司や看護師に相談し、夜間であれば救急搬送を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間発生や地震を想定した防災訓練を計画、実施し、ご入居者も参加し避難している。その他に県下一斉シェイクアウト訓練や、定期的に防災勉強会を実施している。法人で備蓄を準備しており、井戸や自家発電の工事をして非常時に対応できるようにしており、万が一の場合、特養に避難することになっている。地域の方の訓練参加はコロナ禍以降中止しているが、もし駆けつけてもらった場合、何をお願いしたいかは想定できている。	年2回、昼夜想定で、利用者も参加している。法人内の他施設との、災害時の連携の訓練をしている。災害時における地域との連携を想定して、“利用者の見守り”をお願いを、町内会長や地域の世話人の方に話している。水、食料、衛生品を、法人内で、業者によってローリングストックしている。避難は併設する特別養護老人ホームの2階を利用している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会が主導し接遇マナー研修を年に3回実施している。入居者一人ひとりの立場に立って、その人格や誇り、プライバシーを損ねない言葉遣い、挨拶、接遇について学び、個々の接遇は適切なものか確認している。身だしなみについても自己チェックする機会を定期的に設けている。	接遇研修は、担当職員を中心に、資料を活用して研修している。市の研修会にも参加し、職員全体に情報共有し、適切なケアに繋がるように努めている。呼称は、基本は苗字にさんづけだが、ニックネームで反応が良い方には、家族の了承のもと呼んでいる。排泄失敗時には、さりげなく言葉掛けをして利用者のプライバシーに配慮して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、ご入居者自らの思いや希望を話して頂けるよう信頼関係作りに努めている。特に遠慮されがちなご入居者には個別で話せる機会を持ち、思いを表せるようにしている。様々な生活場面で何通りか選択できる提案を行い、可能な限り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の長年の生活習慣や好みは違うため、画一的な活動の押し付けはせず、本人の希望、その日の気分や体調に合わせて過ごし方を職員と一緒に考えている。また、以前からの趣味の編み物、手芸やその他日課が継続できるような時間を作ったり、準備物の購入など本人と相談しながら行っている。希望をうまく伝えられない方には、本人の反応を確かめながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの装いができるように、洋服を本人と一緒にコーディネートして日々装いを楽しんでいる。馴染みの美容院でカラー、パーマを継続している方もいる。化粧の習慣のある方は継続できるよう、メイク道具の購入をご家族にお願いして居室に置き、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、コロナ対策で施設内で調理できないことが何回もあったことや、災害時に備えるため、母体である法人内の特養と同じように外部委託に変更した。個々の希望でメニュー変更はできなくなったが、旬の材料を使ったメニュー、行事食、セレクトメニューなどもあり、食事を楽しめるように工夫している。出来る方には食事の注ぎ分け、下膳や食器洗い等の片づけをして頂いている。	施設内の厨房で作ったものを提供している。行事食はメニューに組み込まれており、ばら寿司が好評。誕生日には、手作りケーキを提供し、担当職員と利用者で、和食や回転寿司の店に行き、楽しいひと時を過ごしている。利用者は、職員と一緒に、会話を楽しみながら食事をしており、「美味しいよ。」との言葉があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ないご入居者について、管理栄養士と相談しながら補食を検討し、提供している。水分摂取量の少ない方には、ご本人の好きな飲み物や、ゼリーを提供する等、しっかり栄養や水分量が充足するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後、うがい、歯磨き、義歯洗浄ができるよう声掛けや一部介助を行っている。それでも口腔内の清潔が保てず汚れや臭いがある方については、大塚歯科訪問診療を定期的に受けている。大塚歯科医師より、毎月口腔ケアについて助言を頂き、全職員で共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行うことで失敗が少なくなり、快適に過ごせるように支援している。また失禁が多くなったからといって、すぐにオムツにするのではなく、その他の支援方法、トイレの声掛けの時間や回数、失禁布パンツの導入など検討している。	トイレを嫌がる利用者には、「うがいしませんか。」などの言葉がけを工夫して、誘導している。トイレという言葉に反応して嫌がる方が多いので、別の言葉がけで、立ち上がるように誘導し、流れでトイレに行くように工夫している。各ユニット数名が布パンツで、タイミングをみた言葉掛けで継続出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の場合、極力薬に頼らず、まずはオリゴ糖や乳製品を試したり、体操や散歩、腹部マッサージを行い、腸の蠕動を助けるようにして、自然なお通じを促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者個々の入りたい時間や、毎日入りたい、一人だけで入りたい、一番風呂がいい等希望を確認し、可能な限り意向に沿えるようにしている。また入浴を楽しんで頂けるよう、菖蒲湯、柚子湯なども行っている。	お風呂は2日に1回提供している。浴槽内に約半数の利用者が入ることができる。(浴槽にまたいで入る必要があるため、入浴が難しい方にはシャワー浴、清拭、足浴などでも対応している)少しでも利用者が気持ちよく過ごせるように努めている。しょうぶ湯、ゆず湯を提供し、季節を感じる工夫をしている。お風呂を嫌がる人には、お風呂というワードを使わず、違う言葉がけをし、立ち上がった流れで入浴するように誘導している。	浴室内の事故防止について、更に改善されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況・年齢に応じて、休息や午睡の声掛けを行っている。また、夜間安眠できるように日中は体操や散歩、レク活動の参加で適度な活動を促し、安心して気持ちよく眠れるように支援している。室温や照明等も工夫し安眠できる居室環境の提供にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者個々の内服薬・外用薬の効能・用量・用法、副作用を記載した一覧表を作成し、全職員が確認し、把握できる場所に置いている。処方が変わった場合は、お薬ケースに変更が一目で分かるよう付箋を貼り、申し送りノートに記載することで情報共有が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや趣味を生かし、それぞれが活躍できる場を提供して、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。編み物、スクラッチアート、書道、裁縫、カラオケ、ピアノ演奏など多様な特技、趣味を継続して楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でしばらく外出できない日が続いたが、第5類に変更後、外出する機会を徐々に増やしている。季節の花々の見物、公民館活動への参加やお誕生日外食など行事での外出も増えてきているので、ご家族との外出、ご自宅への帰宅などもできるよう、ご家族とも相談しながら進めていきたい。	花見や紅葉狩り等、季節を感じられるドライブに行っている。誕生日には、担当職員と利用者が和食のお店に外食に行き、気分転換が図れ、楽しむことができた。家族との外出、外食も可能としており、利用者は穏やかなひと時を過ごしている。公民館の体操やゲームの講座に参加し、地域の方と交流し、優しい言葉掛けに涙ぐむ利用者がいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、お小遣いとして職員が預かって管理し、欲しいものや必要なものは購入できるようにしている。自分でお金を持ちたいという希望がある方が数名おられ、ご自身でお財布を持ち、職員と買い物に行かれた際、ご自身で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方も数名おられ、ご自身で好きな時に欲しい商品を電話で注文されたり、ご家族や知人に電話をかけ話されている方もいる。 手紙のやり取りをご自身だけでされている方はいないが、もらった手紙の返事を職員とともに書かれたり、年賀状については、ほとんどの方が名前や一言メッセージをご自身で書いて、ご家族に出されるお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは吹き抜けで天井が高く開放的である。強い日差しはたすやカーテンで調整したり、温湿度計を設置し管理している。エアコンと大型加湿器を使用し、換気や衣類調節しながら快適に過ごせるように心掛けている。壁面には外出や行事の際の写真や飾り、ご入居者とともに仕上げた季節感のある手作りの作品を掲示しており、ご入居者も毎日眺めて喜ばれている。また季節の花々を飾ることで心地よい空間で快適に過ごせるように努めている。	壁面には、利用者と一緒に作った、季節を感じる折り紙などの作品が飾られている。行事の際の写真も飾られ、利用者の生き生きとした表情が見られた。体操に力を入れており、下肢筋力体操、ラジオ体操など、利用者が体を動かす機会を多く作っている。カラオケが利用者の楽しみの一つで、日常でも希望があるときは、利用者は唄い、心地よい時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や座席は、相性を考慮し出来る限り気の合うご入居者同士で座れるように配慮している。また、共有スペースにはソファを置き、テレビを観たり一人でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご本人やご家族に馴染みの物や好みの物を持参して頂けるよう説明している。机や椅子・テレビ・本・趣味の道具など思い思いの物を持ち込まれ、居室の机で趣味の読書やぬりえ、パズルなど熱中して取り組まれている。また居室には家族写真や、ご家族からの贈り物の花やぬいぐるみ等を飾ったり、ご本人が安心して落ち着いて過ごせるように工夫している。居室入口には防災素材ののれんを吊るし、プライバシーに配慮している。	備え付けは洗面所、ベッド、タンス、クローゼット、椅子、カレンダー、照明、エアコン、カーテン。観葉植物に毎朝、水やりをしたり、携帯電話で家族と会話を楽しんだりする利用者がいる。前から続けているパズルや職員と一緒に作った作品を飾っている方もいる。毎朝、職員が清掃し、利用者がモップ掛けなど手伝うこともあり、広々とした清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の環境整備を行い、ご入居者の歩行・移動に危険がないように配慮している。場所が分かりにくくなっているご入居者に対して座席にネームを貼ったり、居室に表札、トイレは分かりやすく目印をつけて混乱しないように工夫している。歩行器や老人車を使用する方には、置き場を設け動線を確認して安全に生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700832		
法人名	社会福祉法人 豊中福祉会		
事業所名	グループホームとよなか		
所在地	香川県三豊市豊中町笠田竹田697番地1		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 15 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとよなかは、緑あふれる田園地帯ののどかな場所にあり、同敷地には特別養護老人ホーム、デイサービス、老人介護支援センターが併設されている。日々、入居されている方の能力に応じて、ゆったりした介護、個人の人権を尊重した介護を提供している。長く入居されるにつれて重度化が進み、最近では車椅子使用の方も増えて来たが、個々の状態に合わせて対応し、グループホームでの生活を長く継続して頂けるよう、看取りについても早急に整備している。また自立支援に向けて、ご入居者の有する能力を可能な限り活かし、公民館活動の講座に参加したり、食事の片付け、洗濯や掃除などその方に応じた役割を持って生活されることで自信、満足感に繋げている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771700832-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 22 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

冬至の日に訪れたこの施設では、邪気を払う意味を込めて、ゆず湯を用意し、昼食には柚酢を使ったばら寿司、無病息災を祈って、かぼちゃの煮物が出されていた。「体にいいから、かぼちゃ食べよう。」と職員は利用者に優しく語り掛け、一緒に食卓を囲んでいた姿は、思いやりにあふれた心温まるものであった。管理者は、「利用者が持っている特色や特技を、職員が手助けすることで、継続して活かしていけるような介護に努めている。」と語った。家族や地域の方々とのつながりを持つ機会を増やし、心が和む時間を作ることで、利用者は暖かい言葉がけに涙し、朗らかな表情で、毎日を過ごせている。利用者にも、モップ掛けや、食事の配膳など手伝って頂いたり、パズルや手芸などの得意なことを楽しんだりすることは、生活に張り合いが持てることに繋がっている。運営推進会議からの意見を活かして、下肢筋力体操やラジオ体操などの、体を動かす時間を多く作り、少しでも利用者のADLの維持ができるように努めていた。職員と何でも話ができて、管理者はじっくりと聞く体制が、職員一丸を形成し、”利用者のために”を第一とした介護が行われているこの施設は、春に向かっていく希望の始まりとする冬至にふさわしい雰囲気溢れていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホームの理念の双方を常に目に入るよう、玄関、事務所に掲示し、その意義を確認できるようにしている。また理念に沿った事業計画を毎年立てて、達成できるよう全職員が取り組んでいる。	理念は玄関と事務所に掲示してある。年ごとに理念に沿った目標を、理事長と施設長が設定し、職員に説明し指針としている。毎月のケア会議の時に、理念や目標に触れ、振り返るようにしている。新入社員にはオリエンテーションの際に、理念について施設長が説明して、理解につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃奉仕活動は継続して行っていたが、コロナ禍で中止していた地域の公民館講座への参加も再開することができた。また近隣の小学校のSDGsの取り組みで植えたというパンジーのプランターを多数いただいたり、別の小学校から玉ねぎをたくさん頂いたりして交流が図れた。さらに民生委員・児童委員の方、老人クラブの方の訪問など徐々に交流が活発になってきた。	秋祭りが再開され、獅子舞が施設を訪れ、利用者は楽しい時が過ごせた。公民館の体操やゲームの講座に参加し、地域の方からの優しい言葉掛けに、涙ぐむ利用者がいた。運営推進会議や回覧板で、地域の情報が入ってくる。法人内の別施設でのオレンジカフェで、利用者や地域の方は交流している。通学中の生徒と、挨拶を交わすこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で、認知症カフェ「オレンジかふえとよなか」を毎月第3日曜日に開催しており、グループホームからも職員が参加。認知症専門職として、茶話会で相談・助言を行ったり、認知症の基礎知識、予防、リハビリ体操等の講話を行っている。オレンジかふえではケアマネや看護師による相談コーナーも設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、老人会会長、ご家族など多くの参加を頂いている。事業計画、年間の目標、取り組み、入居者状況、行事活動の報告を行い、参加者から頂いた貴重な意見を持ち帰り、職員間で共有している。コロナ時、高齢者が家に籠りがちで運動不足になっている話題から、地域包括職員に助言頂き、下肢筋力トレーニング開始のきっかけにもなった。	自治会長、老人クラブ前会長、民生委員、地域包括支援センター、家族代表、施設長、管理者が参加し、対面で行っている。会議の際に、“コロナ禍で、運動不足から下肢筋力体操など、体を動かすこと”の提案があり取り入れた。会議の際に、利用者の日常や行事の際の写真を添付し、施設での様子を分かりやすくしている。	運営推進会議の更なる活用のために、意見を取り入れる仕組み作りを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センター職員と運営推進会議時に情報交換を行っている。グループホームの運営なども相談し、助言を頂いたり、包括の取り組みについても情報を頂いている。	窓口は管理者がしている。議事録や案内等、直接持っていくことがある。運営推進会議の折に、シェイクアウトに関する資料を頂いたり、転倒事故に関する対応の仕方について、アドバイスを受けたりして、何でも相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームでは身体拘束に該当する方はいないが、法人全体で身体的拘束適正化委員会を開催しており、グループホームからも職員が参加している。年に2回身体拘束の基礎知識や事例検討、指針の読み合わせ等研修を行い、全職員が正しい知識の習得ができるように努めている。	法人全体の身体拘束委員会は、重要だけにあえて2か月に1回設け、担当職員が参加し、事例を挙げ、対応を話し合ったり、各施設の報告をしたりしている。ケア会議で、委員会の内容を、担当職員が報告し、職員全員が周知している。年2回、身体拘束に関して職員全体で研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に3回虐待防止についての勉強会を行い、日々の生活場面で虐待の芽になるような言動がないか、自身の振り返りを行う機会を作っている。また年に1回、自分の声掛けや介助の方法が適切か、虐待に繋がるものがないか、虐待意識調査を行って、結果を公表、改善策を話し合っている。職員のストレス加重も虐待(不適切なケア)に繋がる恐れがあるため、ストレスマネジメントの勉強会を行い、常日頃から何でもフラットに話し合える職場環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されているご入居者はいないが、年に1回権利擁護に関する制度について勉強会を行い、ご入居者の権利が守られるよう、知識習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分に面談の時間を設け、入居に際しての不安や疑問点などが解消できるよう、書面に沿ってしっかりと説明を行っている。解約時と同様である。また料金等の改定などがある際には、運営推進会議で説明し、ご家族に個別に説明を行い、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議にご参加頂き、その際頂いたご意見を運営に反映させている。会議に参加されないご家族には、面会等でご来荘時や電話で話す際、また担当者会議の際にご意見、ご要望を伺っている。ご入居者とは日々の関わりの中で、遠慮なく要望を言って頂ける関係性作りに努めている。	運営推進会議や、電話、面会時に家族の意見を聞き取るようにしている。家族から、“外での花見などのイベントを開催してほしい”との要望があり、来年の課題として開催する方針としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中でも、ご入居者のケアや行事の開催等について、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。またケア会議でも意見を募り、言いたいことが言える職場の雰囲気作りに努めている。職員個々も委員会や係で役割を持っており、責任を持って取り組んでいる。	月1回のケア会議で、職員が言いやすい環境作りに努めており、活発な意見が出ている。不適切ケアがあった時にも、お互い注意しあえる関係づくりが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標参画シートやOJTシートを活用し、職員一人ひとりが年間の目標を立てている。管理者は年に2回面談を行い、悩みや困っていることはないか確認し、目標達成に向けて取り組めるようにしている。代表者は給与体系を整備し、管理者が行った評価をもとに、職員個々の努力や実績を把握し職場環境、条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成について理解を示し、管理者や職員個々の経験値、習熟度の段階に応じた研修機会を均等に与えている。また認知症実践者研修の受講や介護福祉士取得のためのバックアップ体制が整っており、働きながら資格取得が出来る体制がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の研修に参加し、研修先で情報交換を行ったり、他施設管理者に電話や訪問で運営について相談し、自施設のサービス向上に取り入れている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人・ご家族と十分な面談時間を設けたり、入居前に施設訪問して頂き、説明や案内も行っている。ご本人が不安なくスムーズに施設の生活を始められるよう、在宅での生活習慣や日課、こだわり等を聞き取りし、不安なく安心して日々の生活が送れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時よりご家族の意向や不安・心配ごとを面談時間を設けて傾聴している。またグループホームでの生活について十分に説明を行いご理解頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にこれまでの生活歴や在宅での暮らしについて、アセスメントシート(センター方式)をお渡しして聞き取りを行っている。ご本人やご家族のニーズを十分に聞き取りして、初期段階に必要なとしているサービスを見極めて提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご入居者は共に支え合いながら共同生活をしているという認識を持ち、一緒に食事をしたり、家事を行っている。昔ならではの風習などを話して聞かせていただく機会も多く、年長者への尊敬の気持ちを常に持ち、個々の能力を発揮できるように、さり気なくサポートできるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には入居時より、面会や外出、受診同行の協力をお願いし、施設に入居してもご家族との絆が続くよう、ともにご本人を支えていく関係性の継続に努めている。またご家族が気軽に訪問できる雰囲気作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型施設としての位置づけを理解し、コロナウイルス流行で一度途切れてしまった地域交流の活動を少しずつ再開している。公民館活動の講座に参加したり、文化祭や地域のお宅へのお花見物など、地元の顔なじみの人に会える機会を増やしている。また、家族や親戚、知人に年賀状や手紙のやり取りを行う機会を作っている。	公民館の講座に参加した際に、馴染みの方と交流し、涙を流す利用者がいた。家族との面会は、感染対策をした上で、居室やリビングで30分の時間制限を設けてくつろいで頂いている。オレンジカフェで利用者が、地域の方と交流している。施設内で開催していた”わきあい愛会”を、コロナの状況を見て、再開する方針。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格やADL、認知症状、ご入居者同士の相性も考慮し席を決めており、必要に応じて席替えを行うこともある。同席者同士で声を掛け合ったり、助け合う場面も多い。また、重度の認知症の入居者が孤立しないように会話の際、職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所され契約が終了しても、そこで関係が断ち切られることなく、ご本人の新しい生活がスムーズに移行できるよう情報提供し、フォローしている。必要に応じて訪問や相談にも応じている。同法人の特養に入居された方についても、その方の経過を特養職員と話し合う機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、暮らし方の希望や意向について、日々の生活の中でご本人に確認し、ケアに反映できるようにしている。主に外出や食事、人間関係の希望が多く、その都度希望を叶えられるよう努めている。食事やおやつで食べたいものの希望があれば個別に購入し提供している。外食にも希望があれば可能な範囲で個別に出かけている。	日々の生活の中での会話や関りから、利用者の思いをくみ取るようにしている。誕生日には、利用者の希望のお店に、担当職員と一緒に行き、外食を楽しんでいる。会話が困難な方には、毎日の寄り添ったケアの中での、仕草や表情から、くみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人とご家族に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、好きなこと、得意なこと等お聞きして全職員で共有できるようにしている。(気づきノート等)またこれまでのサービス利用の経過を担当ケアマネージャーにうかがい、好きなことや得意なことを役割として継続したり、披露する場を作り、自信を持って暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者一人ひとりの心身の状態や残存機能の把握に努めて、その人がその人らしく活動や家事手伝いを行い、自分のペースで快適に過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の入居者カンファレンスの時間を利用し、ご入居者一人ひとりの課題やケアのあり方について意見交換を行い、介護計画とモニタリングに反映させている。またご本人、ご家族の意向も半年に1回聞く機会を設けている。ご入居者に変化があった場合やご家族から要望があった際はその都度変更を行っている。	月1回の、ケアカンファレンスがモニタリングを兼ねていて、医師や担当職員の意見を元に、話し合いを重ねている。短期目標は3か月、長期目標は6か月で見直している。施設介護計画書は、入居時に作成した後、何もなければ1か月、あとは3か月ごとに、ケアマネジャーを中心に、利用者の立場に立ったケアに繋がるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の様子、言動、心身状態の経過、気づきや工夫をケアカルテに入力し、特に重要なことは申し送りノートを活用して情報の共有を行っている。また、月1回の入居者カンファレンスの際に課題の解決について話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族それぞれにその時生まれるニーズは多様化してきているが、今までに例がないからと渋ることなく、看取りも含めてご家族の意向を確認して柔軟な支援を行えるように努めている。グループホームから習い事に出かけるなどといった軽度の認知症の方の支援から、重度になっても住み慣れたグループホームで一日でも長く生活できるような支援体制を整えていけるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設に入居しても地域の一員として生活が送れるように、地域活動(清掃など)や公民館活動に参加する機会を設けている。またタクシー券を利用してお出かけしたり、地元住民のご自宅にお花を見に行ったり、地元の方の月1回のボランティア訪問を受け交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ご本人、ご家族に意向を確認し、入居前からのかかりつけ医を継続するか、新たに現在の症状に適した病院に転医するか相談し決めている。受診についてはご家族にご同行頂いているが、施設での生活の様子は書面でかかりつけ医に報告しており、必要に応じて職員も同行し、かかりつけ医と連携できるよう努めている。	かかりつけ医は入居前からの継続としていて、家族の付き添いで受診している。医師には、書面で状態を報告し、状態に変化があった時は、職員が付き添って行くようにしている。他科は職員が付き添うことが多い。歯科は月の2回往診がある。協力医は24時間対応で、法人内の看護師に相談できる体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者のわずかな変化や気づきがあれば、看護師が週5日出勤しており、出勤時報告、相談し、指示をもらったり看護師により処置を行っている。看護師より受診の指示があった場合は、早急にご家族に連絡し、早期の受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご入居者が入院された際は、管理者がお見舞いを兼ねて出向き、病院関係者に現状を聞き、地域連携室の担当者と相談しながら早期の退院に向けて連携している。ご家族が遠方で病院にすぐに出向けない場合では、退院時等送迎も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を示して説明を行い、重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人・ご家族に確認している。要介護3以上になった際には、担当者会議等で今後重度化が進んだ場合に、いくつかの選択肢を説明し、ご本人やご家族の意向、方針を話し合っており、よりよい方向に向けて支援を行っている。グループホームでの生活を強く望まれた場合については、看取り介護も含めて多様に対応できる支援体制を整えている最中である。	看取りは準備中で、指針など作成中。入居時に、家族に終末期に関する説明と確認はしているが、重度化した場合には、医師の意見のもと、再度、意向確認をしている。その上で、家族の希望があれば、出来る限り施設でケアするように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生の際は、簡単な応急手当など救急救命に関する研修を受け、対応できるようにしている。法人の看護師長に特変時の対応について学ぶ機会も設けている。急変や事故発生時は1人で判断せず、上司や看護師に相談し、夜間であれば救急搬送を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間発生や地震を想定した防災訓練を計画、実施し、ご入居者も参加し避難している。その他に県下一斉シェイクアウト訓練や、定期的な防災勉強会を実施している。法人で備蓄を準備しており、井戸や自家発電の工事をして非常時に対応ができるようにしており、万が一の場合、特養に避難することになっている。地域の方の訓練参加はコロナ禍以降中止しているが、もし駆けつけてもらった場合、何をお願いしたいかは想定できている。	年2回、昼夜想定で、利用者も参加している。法人内の他施設との、災害時の連携の訓練をしている。災害時における地域との連携を想定して、“利用者の見守り”のお願いを、町内会長や地域の世話人の方に話している。水、食料、衛生品を、法人内で、業者によってローリングストックしている。避難は併設する特別養護老人ホームの2階を利用している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会が主導し接遇マナー研修を年に3回実施している。入居者一人ひとりの立場に立って、その人格や誇り、プライバシーを損ねない言葉遣い、挨拶、接遇について学び、個々の接遇は適切なものか確認している。身だしなみについても自己チェックする機会を定期的に設けている。	接遇研修は、担当職員を中心に、資料を活用して研修している。市の研修会にも参加し、職員全体に情報共有し、適切なケアに繋がるように努めている。呼称は、基本は苗字にさんづけだが、ニックネームで反応が良い方には、家族の了承のもと呼んでいる。排泄失敗時には、さりげなく言葉掛けをして利用者のプライバシーに配慮して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、ご入居者自らの思いや希望を話して頂けるよう信頼関係作りに努めている。特に遠慮されがちなご入居者には個別で話せる機会を持ち、思いを表せるようにしている。様々な生活場面で何通りか選択できる提案を行い、可能な限り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の長年の生活習慣や好みは違うため、画一的な活動の押し付けはせず、本人の希望、その日の気分や体調に合わせた過ごし方を職員と一緒に考えている。また、以前からの趣味の編み物、手芸やその他日課が継続できるような時間を作ったり、準備物の購入など本人と相談しながら行っている。希望をうまく伝えられない方には、本人の反応を確かめながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、その日の洋服はご本人に選んでもらい、日々の生活で装いを楽しめるようにしている。洋服に強いこだわりを持っていたり、気に入った服しか着られない方もいるが、無理強いせずに、夜間洗濯をして乾燥後お返しするなどの対応を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、コロナ対策で施設内で調理できないことが何回もあったことや、災害時に備えるため、母体である法人内の特養と同じように外部委託に変更した。個々の希望でメニュー変更はできなくなったが、旬の材料を使ったメニュー、行事食、セレクトメニューなどもあり、食事を楽しめるように工夫している。またどうしても自分の食べたいものがある場合は職員が買ってくるなど柔軟に対応し、食べる楽しみが持てるようにしている。	施設内の厨房で作ったものを提供している。行事食はメニューに組み込まれており、ばら寿司が好評。誕生日には、手作りケーキを提供し、担当職員と利用者で、和食や回転寿司の店に行き、楽しいひと時を過ごしている。利用者は、職員と一緒に、会話を楽しみながら食事をしており、「美味しいよ。」との言葉があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の少ないご入居者について、管理栄養士と相談しながら補食を検討し、提供している。かなり体重減少されたご入居者について、食事形態の見直し、補食の提供を継続したことで、体重が元の体重に近づき、表情も明るく意欲も向上した。水分摂取量の少ない方には、ご本人の好きな飲み物であったり、ゼリーを提供する等、しっかり栄養や水分量が充足するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後、うがい、歯磨き、義歯洗浄ができるよう声掛けや一部介助を行っている。それでも口腔内の清潔が保てず汚れや臭いがある方については、大塚歯科訪問診療を定期的に受けている。大塚歯科医師より、毎月口腔ケアについて助言を頂き、全職員で共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行うことで失敗が少なくなり、快適に過ごせるように支援している。また失禁が多くなったからといって、すぐにオムツにするのではなく、その他の支援方法、トイレの声掛けの時間や回数、失禁布パンツの導入など検討している。	トイレを嫌がる利用者には、「うがいしませんか。」などの言葉がけを工夫して、誘導している。トイレという言葉に反応して嫌がる方が多いので、別の言葉がけで、立ち上がるように誘導し、流れてトイレに行くように工夫している。各ユニット数名が布パンツで、タイミングをみた言葉掛けで継続出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の場合、極力薬に頼らず、まずはオリゴ糖や乳製品を試したり、体操や散歩、腹部マッサージを行い、腸の蠕動を助けるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者個々の入りたい時間や、毎日入りたい、一人だけで入りたい、一番風呂がいい等希望を確認し、可能な限り意向に沿えるようにしている。また入浴を楽しんで頂けるよう、菖蒲湯、柚子湯なども行っている。	お風呂は2日に1回提供している。浴槽内に約半数の利用者が入ることができる。(浴槽にまたいで入る必要があるため、入浴が難しい方にはシャワー浴、清拭、足浴などでも対応している)少しでも利用者が気持ちよく過ごせるように努めている。しょうぶ湯、ゆず湯を提供し、季節を感じる工夫をしている。お風呂を嫌がる人には、お風呂というワードを使わず、違う言葉がけをし、立ち上がった流れで入浴するように誘導している。	浴室内の事故防止について、更に改善されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況・年齢に応じて、休息や午睡の声掛けを行っている。また、夜間安眠できるように日中は体操や散歩、レク活動の参加で適度な活動を促し、安心して気持ちよく眠れるように支援している。室温や照明等も工夫し安眠できる居室環境の提供にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者個々の内服薬・外用薬の効能・用量・用法、副作用を記載した一覧表を作成し、全職員が確認し、把握できる場所に置いている。処方が変わった場合は、お薬ケースに変更が一目で分かるよう付箋を貼り、申し送りノートに記載することで情報共有が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや趣味を生かし、それぞれが活躍できる場を提供して、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう支援している。編み物、スクラッチアート、書道、裁縫、カラオケ、ピアノ演奏など多様な特技、趣味を継続して楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でしばらく外出できない日が続いたが、第5類に変更後、外出する機会を徐々に増やしている。季節の花々の見物、公民館活動への参加やお誕生日外食など行事での外出も増えてきているので、ご家族との外出、ご自宅への帰宅などもできるよう、ご家族とも相談しながら進めていきたい。	花見や紅葉狩り等、季節を感じられるドライブに行っている。誕生日には、担当職員と利用者が和食のお店に外食に行き、気分転換が図れ、楽しむことができた。家族との外出、外食も可能としており、利用者は穏やかなひと時を過ごしている。公民館の体操やゲームの講座に参加し、地域の方と交流し、優しい言葉掛けに涙ぐむ利用者がいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、お小遣いとして職員が預かって管理し、欲しいものや必要なものは購入できるようにしている。自分でお金を持ちたいという希望がある方が数名おられ、ご自身でお財布を持ち、職員と買い物に行かれた際、ご自身で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方も数名おられ、ご自身でご家族に電話をかけ話されている。手紙のやり取りをご自身だけでされている方はいないが、もらった手紙の返事を職員とともに書かれたり、年賀状については、ほとんどの方が名前や一言メッセージをご自身で書いて、ご家族に出されるお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは吹き抜けで天井が高く開放的である。強い日差しはたてすやカーテンで調整したり、温湿度計を設置し管理している。エアコンと大型加湿器を使用し、換気や衣類調節しながら快適に過ごせるように心掛けている。壁面には外出や行事の際の写真を飾り、ご入居者とともに仕上げた季節感のある手作りの作品を掲示しており、ご入居者も毎日眺めて喜ばれている。また季節の花々を飾ることで心地よい空間で快適に過ごせるように努めている。	壁面には、利用者と一緒に作った、季節を感じる折り紙などの作品が飾られている。行事の際の写真も飾られ、利用者の生き生きとした表情が見られた。体操に力を入れており、下肢筋力体操、ラジオ体操など、利用者が体を動かす機会を多く作っている。カラオケが利用者の楽しみの一つで、日常でも希望があるときは、利用者は唄い、心地よい時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や座席は、相性を考慮し出来る限り気の合うご入居者同士で座れるように配慮している。また、共有スペースにはソファを置き、テレビを観たり一人でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご本人やご家族に馴染みの物や好みの物を持参して頂けるよう説明している。机や椅子・テレビ・本・趣味の道具など思い思いの物を持ち込まれ、居室の机で趣味の読書やぬいえ、パズルなど熱中して取り組まれている。また居室には家族写真や、ご家族からの贈り物の花やぬいぐる等を飾ったり、ご本人が安心し落ち着いて過ごせるように工夫している。居室入口には防災素材ののれんを吊るし、プライバシーに配慮している。	備え付けは洗面所、ベッド、タンス、クローゼット、椅子、カレンダー、照明、エアコン、カーテン。観葉植物に毎朝、水やりをしたり、携帯電話で家族と会話を楽しんだりする利用者がいる。前から続けているパズルや職員と一緒に作った作品を飾っている方もいる。毎朝、職員が清掃し、利用者がモップ掛けなど手伝うこともあり、広々とした清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の環境整備を行い、ご入居者の歩行・移動に危険がないように配慮している。場所が分かりにくくなっているご入居者に対して座席にネームを貼ったり、居室に表札、トイレは分かりやすく目印をつけて混乱しないように工夫している。歩行器や老人車を使用する方には、置き場を設け動線を確保して安全に生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				